令和6年度

大学院入試
募集要項

工学研究科 博士前期課程
博士後期課程

やりたいことを、できることに。

湘南工科大学
SHONAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

目　次

工学研究科の基本ポリシー ・・ 2

Ⅰ．工学研究科博士前期課程 ・・ 4

教育研究課程 ・・ 9

● 共通科目 ・・ 9

● 機械工学専攻 ・・ 10

● 電気情報工学専攻 ・・ 11

● 授業科目および単位数 ・・・ 12

Ⅱ．工学研究科博士後期課程 ・・ 13

教育研究課程 ・・ 19

● 共通科目 ・・ 19

● 機械工学専攻 ・・ 20

● 電気情報工学専攻 ・・ 21

● 授業科目および単位数 ・・・ 22

● ＡＣＣＥＳＳ

個人情報の取り扱いについて

本学に提出された志願票等の個人情報に関しては、本人の同意がある場合または法令に基づく場合を除き、第三者（「業務委託先」を除く）への情報提供を一切行いません。

工学研究科の基本ポリシー

工学研究科　博士前期課程

● ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

以下に掲げた能力を身につけたと判断される者に、修士（工学）の学位を授与する。

1. 専門分野において必要とされる知識を有し、それを応用し実践する能力。
2. 専門分野における課題を把握し、解決方法を自ら見出す能力。
3. 協調性と多面的な視野をもって、計画的に研究開発を遂行する能力。
4. 研究成果の発表やまとめなどにおける論理的な記述力とコミュニケーション能力。

上記の能力は、以下を達成したときに、身につけたものと判断する。

a. カリキュラムにおける所定の単位を修得していること。
b. 研究成果について､少なくとも１編の学術論文の学外発表または公表､もしくは、少なくとも1回の学外公開作品展示を行っていること。
c. 修士論文を提出・発表し、審査の結果、合格と判定されていること。

● カリキュラム・ポリシー（教育課程の方針）

ディプロマ・ポリシーが要求する諸能力を身につけるために、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 幅広い講義科目を準備し、専門分野における十分な基礎知識と高度知識を教授する。
2. 個別指導のもと、専門分野における課題を発見させ、解決方法を自ら見出させ、計画的に研究開発を遂行させる。
3. 研究開発の成果と知見を論理的に記述した修士論文をまとめ、その内容を学外発表または公表できるように、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけさせる。

● アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

以下に掲げた条件を満足する者を受け入れる。

1. 志望する専門分野における基礎的な学力を有する者。
2. 志望する専門分野を勉学し、社会に役立つ研究開発を通して、実践的能力を備えた専門技術者・研究者となることに情熱を持つ者。

工学研究科　博士後期課程

● ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

以下に掲げた能力を身につけたと判断される者に、博士（工学）の学位を授与する。

1．専門分野において必要とされる高度な学術的知識を体系的に理解し、高度な応用が可能であり、かつ、それを教授する能力。

2．専門分野における課題を社会的かつ学術的な見地から深く把握し、解決方法を創出する能力。

3．協調性と多面的な高い視野と見識をもって、リーダとして計画的に研究開発を主導する能力。

4．高度な研究を行い、その成果と知見を学術論文としてまとめ、国内外の学会や学術雑誌等で公表する能力。

上記の能力は、以下を達成したときに、身につけたものと判断する。

a．カリキュラムにおける所定の単位を修得していること。

b．研究成果について、自らが主執筆者である学術論文を少なくとも２編公表していること。

c．博士論文を提出・公開発表し、審査の結果、合格と判定されていること。

● カリキュラム・ポリシー（教育課程の方針）

ディプロマ・ポリシーが要求する諸能力を身につけるために、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1．高度な講義科目を準備し、専門分野における高度かつ最先端の知識を教授する。

2．個別指導のもと、専門分野における社会的かつ学術的な高度な課題を発見させ、解決方法を考案させ、学部学生や博士前期課程学生を指導して計画的に研究開発を遂行させる。

3．高度な研究を行わせ、成果と知見を論理的に記述し学術論文にまとめ、学会等で発表・討議する能力をみにつけさせる。

● アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

以下に掲げた条件を満足する者を受け入れる。

1．志望する専門分野における高度な学力を有する者。

2．社会に貢献できる高度な専門知識・能力と洞察力を備えた高度専門技術者または研究者となることに情熱を持つ者。

令和６年度　大学院入試

Ⅰ 工学研究科博士前期課程

（一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生選抜）

◎各選抜について、「4 選抜方法（▶ P.5）」以外はすべて共通となります。

1 専攻および募集人員

研究科名	課　　程	専攻名	募集人員
工学研究科	博士前期課程	機械工学専攻 電気情報工学専攻	若干名

2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

1. 大学を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者
2. 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者および令和６年３月までに授与見込みの者
3. 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および令和６年３月までに修了見込みの者
4. 外国の学校が行う通信教育を日本国において履修することにより当該国の 16 年の課程を修了した者および令和６年３月までに修了見込みの者
5. 日本国において、外国の大学相当として文部科学大臣が指定した外国の学校の課程を修了した者および令和６年３月までに修了見込みの者
6. 外国の大学等において、修行年限が 3 年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者および令和６年３月までに授与見込みの者
7. 文部科学大事が指定した専修学校の専門課程を修了した者および令和６年３月修了見込みの者
8. 文部科学大学が指定した者
9. 本大学院において、大学を卒業した者と同等の学力があると認めた22歳以上の者

出願資格9に該当する者について

出願資格9に該当する者は、別途、認定審査があります。
出願資格認定申請書 認定-1 認定-2 を、指導教員面談申込期間内に指導教員面談申込書等とともに提出してください（書類については、「5 指導教員面談申し込みについて（▶ P.5）」を参照）。
本大学院において、書類審査の上、認定しますが、必要に応じて口頭試問を行う場合があります。

職業を有する者について

職業を有する者で、入学後も在籍する場合は、課程修了まで出向、休職またはそれに準じた取り扱いにより、勤務先からの派遣が可能である者に限ります。

3 入試日程

指導教員面談申込期間（消印有効）	出願期間（消印有効）	試験日	合格発表日	入学手続締切日
令和５年７月１日(土) ～７月24日(月)	令和５年７月24日(月) ～７月28日(金)	令和５年９月２日(土)	令和５年９月６日(水)	１次手続：令和５年 ９月29日(金) ２次手続：令和５年11月24日(金)

4 選抜方法

●一 般 選 抜： 書類審査と、筆記試験および面接（プレゼンテーション含む）の評価を総合して選抜します。
●社会人特別選抜： 書類審査と、筆記試験および面接（プレゼンテーション・これまで社会で培ってきた社会性と社会人基礎力等についての口頭試問含む）の評価を総合して選抜します。
●外国人留学生選抜： 書類審査と、筆記試験および面接（プレゼンテーション・日本語能力についての口頭試問含む）の評価を総合して選抜します。

筆 記 試 験	数学、英語は共通で必須。 そのほか、受入指導教員が所属する学科の専門科目
面 接 （プレゼンテーション含む）	**PowerPointを使用して行うこと。** PowerPointにて10分程度、志望理由書の内容（志望動機、卒業研究の内容、研究計画・抱負）を詳しく説明。その後、20分程度の質疑応答を行います。

5 指導教員面談申し込みについて

志願者が希望する研究内容が受け入れ可能か確認するため、指導教員との事前面談が必要です。
この面談の結果、受け入れ可能と判断された者のみが出願できます（あくまで出願許可であり、合格を約束したものではありません）。
指導教員面談申込期間内（消印有効）に下記の提出書類をそろえ、市販の角２封筒に封入し、郵便局窓口から簡易書留速達で郵送してください。
面談日は決定次第、入試課から連絡します（希望に添えない場合がありますので、予めご了承ください）。

提出書類

証明書などの発行日は、すべて申し込みの６か月以内とします。
所定の用紙については、「12 提出書類のダウンロードについて（▶P.8）」をご覧ください。

1	指導教員面談申込書	本学所定の用紙 面談-1
2	卒業論文・修士論文の概要	本学所定の用紙 面談-2 ただし、出願資格9に該当する者は提出不要です。
3	卒業(見込み)証明書	出身大学等が発行し、厳封したもの。または、大学評価・学位授与機構が作成した学位授与証明書(申請予定者は在籍する教育機関の長の学位授与申請予定証明書）。 ただし、出願資格9に該当する者は提出不要です。
4	成 績 証 明 書	出身大学等が発行し、厳封したもの。 ただし、出願資格９に該当する者は提出不要です。
5	出願資格認定申請書	本学所定の用紙 認定-1 認定-2 出願資格９に該当する者のみ提出してください。
6	そ の 他	● 日本語または英語以外で作成されたものは、必ず公的機関または日本語学校等が証明する日本語訳か英語訳を添付してください。それ以外の者が翻訳する場合は、住所・氏名・本人との関係を記入し、押印して提出してください。本人による翻訳は不可です。 ● 提出書類に不備がある場合は受け付けません。また、提出書類は一切返却しません。
7	宛 名 シ ー ト	必要事項を記入の上、角２封筒に貼り付けてください。

6 出願書類

証明書などの発行日は、すべて出願の6カ月以内とします。
所定の用紙については、「12　提出書類のダウンロードについて(▶ P.8)」をご覧ください。

1	写　真　票	本学所定の用紙 Ａ票 検定料収納印のないものは受け付けません。
2	志　願　票	本学所定の用紙 Ｄ票　外国人留学生のみ Ｄ票(2)
3	出願許可書	指導教員との面談後に本学が発行・郵送した書類。
4	卒業(見込み)証明書	指導教員面談申込時に提出済みのため不要です。
5	成績証明書	指導教員面談申込時に提出済みのため不要です。
6	志望理由書	本学所定の用紙 Ｅ票(1) Ｅ票(2) 志望動機、卒業研究の内容、研究計画・抱負を自筆で各300字以内にまとめたもの。外国人留学生の場合は、更に、日本へ留学を志した動機等も含む(必ず日本語で記すこと)。
7	入学志願者所見	本学所定の用紙 Ｆ票 出身大学等の指導教員または学部長が作成し、厳封したもの。 ただし、出願資格9に該当する者は別途案内します。
8	出願同意書	本学所定の用紙 Ｇ票 職業を有する者で、入学後も在職する場合は提出してください。
9	写　真（２枚）	縦4cm、横3cm、上半身正面脱帽、背景なしで、出願の3カ月以内に撮影したものを写真票および志願票に貼り付けてください(裏面に氏名記入のこと。シール状の場合は記入不要）。
10	そ　の　他	●外国人留学生は下記の書類も提出してください。 ①市区町村が発行した住民票(「国籍」「在留資格」「在留期間等」「在留カード等の番号」「在留期間の満了の日」が記載されている原本)。なお、「個人番号(マイナンバー)」は不要です。 ②現在、日本国内の教育機関（日本語学校や専門学校等）に在籍している者は、その教育機関の成績証明書および出席状況証明書。 ③日本語能力が証明できる書類(日本語能力試験の結果等)は任意です。 ●日本語または英語以外で作成されたものは、必ず公的機関または日本語学校等が証明する日本語訳か英語訳を添付してください。それ以外の者が翻訳する場合は、住所・氏名・本人との関係を記入し、押印して提出してください。本人による翻訳は不可です。
11	宛名シート	必要事項を記入の上、角2封筒に貼り付けてください。

7 出願にあたっての注意事項

- 出願書類に不備がある場合は受け付けません。また、出願書類は一切返却しません。
- 出願許可書に記載の志望専攻および指導教員以外への出願はできません。
- 出願書類に虚偽があった場合、合格を取り消すことがあります。
- 出願書類は市販の角2封筒に封入し、必ず郵便局窓口から簡易書留速達で郵送してください。
- 健康診断書の提出は必要ありません。ただし、入学後に実施する本学の健康診断を必ず受診してください。なお、身体に障がいがあり、受験上または修学にあたり留意する必要がある場合は出願の前に必ず入試課に相談してください。

8 検定料　30,000 円　※納入した検定料は理由のいかんを問わず返還しません。

必ず本学所定の写真票 Ａ票 、振込金受領書 Ｂ票 、振込依頼書 Ｃ票 を使用し、金融機関窓口から振り込んでください（Ａ･Ｂ･Ｃ票は切り離さず銀行へ持参してください）。検定料振り込み後、Ａ･Ｂ票の「取扱金融機関収納印」欄に収納印が押されていることを確認し、Ａ票を提出してください。Ｂ票は本人保存用のため、提出の必要はありません。

9 受験について

試 験 時 間	● 筆記試験／ 9：00～ ● 面　　接／13：00～
試 験 会 場 （集合時間）	湘南工科大学 ※ 集合時間は以下の通りです。会場については、試験当日、正門の掲示を確認してください。 ● 筆記試験は、試験開始 30 分前までに試験会場に集合してください。 ● 面接は、試験開始 10 分前までに面接控室に集合してください。
持参するもの	受験票、プレゼンテーション時に使用するノートパソコンおよび PowerPoint のデータ ※プレゼンテーションは自身のノートパソコンを使用します。やむを得ず用意ができない場合は出願時に入試課まで申し出てください。試験当日は PowerPoint のデータが入った USB メモリーを持参してください。
注 意 事 項	● 試験にふさわしい服装で来てください。 ● 筆記試験では、筆記用具（鉛筆、シャープペンシル、消しゴム）、時計（スマートウォッチなどは除く）のみ使用可。その他は試験中の使用を認めません。 ● 控室および試験室では、監督者・係員の指示に従ってください。
問い合わせ （入試課）	電話：0466-30-0200　　Eメール：ny-daigakuin@center.shonan-it.ac.jp （受付時間／月～金 8：30～16：30、土 8：30～12：30、日祝を除く）

10 合格発表・入学手続

1．合格発表について
- ● 合格発表日の 13:00 頃、大学院掲示板に掲示するとともに、合格者のみに本人あて郵便（速達）で通知します。
- ● 不合格の通知は行いません。電話、郵便等による問い合わせには一切応じません。

2．入学手続について
- ●「合格通知書」に同封の「入学手続要領」を参照し、入学手続締切日までに手続きを完了してください。
- ● 入学手続締切日までに手続きを完了しない場合は、入学を辞退したものとみなします。
- ● 職業を有する者は、別途、その長または代表者の入学承諾書を提出してください。
- ● 一度納入された学費およびその他費用は返還しません。
  ただし、やむを得ない理由により入学を辞退する場合は、「合格通知書」に同封の「入学手続要領」に記載されている通りに手続きを行うことにより、入学金を除く学費およびその他費用を返還します。

11 入学に必要な費用

（令和5年度参考　単位：円）

項目		分納 前期分（入学手続時）	分納 後期分（9月）	年額
学費	入学金	250,000	—	250,000
	授業料	435,000	435,000	870,000
	施設拡充費	110,000	110,000	220,000
小計		795,000	545,000	1,340,000
その他費用	学生教育研究災害傷害保険料	2,430	—	2,430
合計		797,430	545,000	1,342,430

1. 入学金は初年度のみ徴収します。
2. 学費は、前期（入学手続時）795,000円、後期（9月）545,000円の2回に分けて納入してください。
   ただし、その他費用については、入学手続時に学費とあわせて納入してください。
   年額での納入を希望する場合は、入試課までご連絡ください。
3. 学生教育研究災害傷害保険は、学生の教育研究上（課外活動を含む）の災害事故についての補償制度で、2年間適用されます。（保険料の改定により金額変更となる場合があります。詳細は入学手続時にお知らせします。）

12 提出書類のダウンロードについて

令和6年度大学院入試で使用する提出書類（本学所定の用紙）は下記の方法でダウンロードしてください。

◎博士前期課程：一般入試（学外）

本学公式Webサイト　＞　入試情報　＞　大学院入試　＞　入試日程／博士前期課程

（URL：　https://www.shonan-it.ac.jp/examination/graduate-school/）

注意事項

- ページの拡大・縮小・両面印刷はせずに、A4サイズで印刷してください。
- 所定の用紙は、すべて黒のボールペン（消せるボールペンは不可）で記入してください。
- 間違えた場合は二重線を引いて訂正印を押し、正しい内容を余白に記入してください。修正液、修正テープは使用しないでください。
- その他、各用紙に記載の注意事項をよく読んで、間違いのないよう記入してください。

13 教育研究課程　※令和５年４月現在の内容です。

共通科目

社会で活躍できる技術者・研究者となるためには、個々の専門分野だけでなく、大学院生としての共通的な基礎力向上と幅広い知識を持つことが必要とされる。このために専攻共通科目として、英語、データサイエンス、キャリアの各科目が準備されている。

1. 英語科目

科学技術に関するアカデミックな英語基礎力の獲得を目標とする「アカデミック英語」と、国際会議や英語論文の作成などに必要な構文や文法を学び、自ら英語論文が書ける指導を行う「技術英語」が準備されている。「アカデミック英語」は必修科目であり、「技術英語」は選択科目である。

2. データサイエンス科目

「データサイエンス基礎」では、AI、データ分析・能力、ITS、情報収集技術、プログラミング方法などの基礎を学ぶ（主に機械工学専攻対象）。また、既にデータサイエンスの基礎を学んでいる学生を対象とした「データサイエンス発展」では、人工知能技術の中で活用されるパターン認識、統計的学習理論、非線形問題最適化の 3 応用テーマを学ぶ（主に電気情報工学専攻対象）。この 2 つの科目は選択必修科目であり、「基礎」または「発展」のどちらかを履修する必要がある。

3. キャリア科目

学生の意識改革や対人関係能力を伸ばす方法を学ぶためのグループワーク形式の科目「コミュニケーション」と、学生の将来計画や就職支援を図る目的として、体験を通して学ぶための「エンジニアリングキャリアプラン」が設けられている。これらの 2 科目は必修科目である。

機械工学専攻

教育目標

「社会に役立つ機械並びにそのシステムを開発・設計するための実践的能力を備えた専門技術者・研究者の養成」

専攻の概要

機械工学は、情報工学や材料工学等の進歩と共に実現可能な技術が増え、その応用領域も広がりながら発展している。そこで、本専攻では実社会に即応できる実践的能力を備えた専門技術者・研究者を養成するために、実社会での業務でお互いに関連の深い内容により教育研究分野を編成している。すなわち、生産工学の中の設計手法と製造技術をまとめた「設計・製造工学」、各種エネルギと機械的エネルギとの間の変換に関する「エネルギ変換工学」、機器の動作を連動させ、機械の目的を高度に達成するための「機械制御工学」、構造材料や機能性材料の開発や成形製法に関する「機械材料工学」および環境技術を含めた工業製品のデザインに関する「総合デザイン」の5教育研究分野から構成される。
本専攻では、これら各専門分野に関する高度な講義、討論、研究を行うと共に、博士後期課程へ進学するに値する能力を有する研究者の育成も行う。上記教育目標を実現するために、本専攻を構成する教員が自己の研究あるいは実践的体験を踏まえた教育指導を以下の構成の下で行う。

1. 設計・製造工学教育研究分野

機械の目的を実現するための構造、並びに構造と関わる機械材料の物理的性質および強度とその評価法を学び、それらに関連の深い要素技術としてのトライボロジー、製作コストも含めた設計上必要な最近の製造・加工方法についての教育研究を行う。

2. エネルギ変換工学教育研究分野

機械と流体および熱の間のエネルギ変換に関して、力学的基礎に基づいた機械工学技術を学ぶと共に、最近のコンピュータによる当該分野のシミュレーション技法についての教育研究を行う。

3. 機械制御工学教育研究分野

機械要素間の連携を図り、機能を高度に発揮するための制御技術および、その応用としてのメカトロニクスと、環境に対する要求の高まりと共に重要性が増してきた音響・騒音・振動工学についての教育研究を行う。

4. 機械材料工学教育研究分野

複合材料、金属材料等の高性能を示す機械構造材料および、高分子材料、無機材料等の高機能性材料の新規創生や、材料物性と発現機能の関連性、それらを生み出す成形製法についての教育研究を行う。

5. 総合デザイン教育研究分野

工業製品の形状や色彩、素材と加工・成形方法、およびそれらを含む環境技術とそのデザイン方法について演習を取り入れながら概観し、デザインについての教育研究を行う。

電気情報工学専攻

教育目標

「電気情報工学におけるソフトからハードまでの広い技術範囲をカバーする実践的能力を備えた専門技術者・研究者の養成」

専攻の概要

電気情報工学は科学技術の発展に伴い、広範囲に発展してきた領域である。本専攻では電気情報工学におけるソフトからハードまでの広い技術範囲のうちのそれぞれの分野での実践的能力を備えた専門技術者・研究者を養成するために、基盤技術と先端技術により教育研究分野を編成している。すなわち、産業の基幹となる電力工学を中心とする「電気電子工学」、高度情報化社会の進展に対応した「情報システム基盤層」および「情報システム上位層」、さらに、材料、結晶、電子デバイス、物性学に関する「電子情報材料工学」の4教育研究分野により編成される。また、これらの基礎となる共通的な学力を養成するための教育も行う。

本専攻では、これら各専門分野に関する高度な講義、討論、研究を行うと共に、博士後期課程へ進学するに値する能力を有する研究者の育成も行う。上記教育目標を実現するために、本専攻を構成する教員が自己の研究あるいは実践的体験を踏まえた教育指導を以下の構成の下で行う。

1. 電気電子工学教育研究分野

地球環境保全に対応した分散型エネルギシステムの構築、送配電における超高圧・大電流現象の究明、さらにこれらの分野において生じる非線形制御論などについて講義および研究を行う。

2. 情報システム基盤層教育研究分野

コンピュータハードウェア分野を中心に、基礎となるシステムLSI設計および計算機構成、画像処理やその応用であるグラフィックシステム、さらには非線形系の解析設計について講義および研究を行う。

3. 情報システム上位層教育研究分野

コンピュータソフトウェア分野を中心に、ソフトウェア工学、OS・ミドルウェアなどの基本ソフトウェア、Web技術にも関連するマルチメディア処理、ニューラルネットワークなど知識情報処理、基本であるデータ処理や情報数学、そして自然言語処理、音声言語処理、さらには福祉情報工学について講義および研究を行う。

4. 電子情報材料工学教育研究分野

電子デバイスの基礎となる半導体の基本的特徴から材料組成、結晶構造、界面状態、成分分布の分析法、さらに電子デバイスを用いた線形・非線形回路の解析法やシミュレーション手法などの幅広いテーマについて講義および研究を行う。

授業科目および単位数

共通科目

区分	分野	科目名	配当年次	単位 必修	単位 選択	学期 前期	学期 後期	備考
共通科目	英語	アカデミック英語	1	2		○		
		技術英語	1		2		○	
	データサイエンス	データサイエンス基礎	1		2	○		2科目から1科目2単位以上を選択必修
		データサイエンス発展	1		2		○	
	キャリア	コミュニケーション	1	2		○		
		エンジニアリングキャリアプラン	1	2			○	

機械工学専攻科目

区分	分野	科目名	配当年次	単位 必修	単位 選択	学期 前期	学期 後期	備考
専攻専門科目	基礎科目	材料工学基礎	1		2	○		4科目から2科目4単位以上を選択必修
		エネルギー工学基礎	1		2		○	
		設計工学基礎	1		2		○	
		数値計算工学基礎	1		2	○		
	特論科目	製造工学特論	1･2		2	○		6科目から2科目4単位以上を選択必修
		材料力学特論	1･2		2		○	
		流体・伝熱工学特論	1･2		2	○		
		機械力学・ロボット工学特論	1･2		2		○	
		制御工学特論	1･2		2	○		
		生体機械工学特論	1･2		2	○		
	研究指導科目	機械工学課題研究	1	4		○		注記（4）参照のこと
		機械工学特別研究	2	6		○		

電気情報工学専攻科目

区分	分野	科目名	配当年次	単位 必修	単位 選択	学期 前期	学期 後期	備考
専攻専門科目	基礎科目	ソフトウェア基礎	1		2	○		4科目から2科目4単位以上を選択必修
		ハードウェア基礎	1		2		○	
		情報工学基礎	1		2	○		
		情報処理応用基礎	1		2		○	
	特論科目	電力工学特論	1･2		2	○		6科目から2科目4単位以上を選択必修
		通信工学特論	1･2		2		○	
		情報制御工学特論	1･2		2		○	
		電子デバイス特論	1･2		2	○		
		電子情報材料特論	1･2		2		○	
		クラウド・量子コンピューティング特論	1･2		2	○		
	研究指導科目	電気情報工学課題研究	1	4		○		注記（4）参照のこと
		電気情報工学特別研究	2	6		○		

履修上の注意事項

（１）30単位以上を修得すること。
（２）共通科目から別に定める必修科目6単位を修得すること。
（３）自専攻の基礎科目から2科目4単位以上を選択必修、特論科目から2科目4単位以上を選択必修として単位を修得すること。
（４）指導教員が担当する課題研究4単位と特別研究6単位を修得すること。
（５）他専攻の授業科目は、4単位を限度として履修することができる。

令和６年度　大学院入試
Ⅱ 工学研究科博士後期課程

1 専攻および募集人員

研究科名	課　　程	専攻名	募集人員
工学研究科	博士後期課程	機械工学専攻 電気情報工学専攻	若干名

2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

1. 修士の学位や専門職学位を有する者および令和６年３月取得見込みの者
2. 外国において、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者および令和６年３月までに授与見込みの者
3. 外国の学校が行う通信教育を日本国において履修し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者および令和６年３月までに授与見込みの者
4. 日本国において、外国の大学院相当として文部科学大臣が指定した外国の学校の課程を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者および令和６年３月までに授与見込みの者
5. 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者および令和６年３月までに授与見込みの者
6. 大学等を卒業し、大学、研究所等にて２年以上研究に従事した者で、本大学院において、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた者
7. 本大学院において、修士の学位を有する者と同等の学力があると認めた24歳以上の者

出願資格6および7に該当する者について

出願資格６および７に該当する者は、別途、認定審査があります。
出願資格認定申請書 認定-1 認定-2 を、指導教員面談申込期間内に指導教員面談申込書等とともに提出してください（書類については、「5 指導教員面談申し込みについて（▶ P.14 ～ 15）」を参照）。

１．認定基準
　次の①または②の要件を満たす者
　①大学卒業後、各種の教育機関または研究機関や企業等で、２年以上研究に従事している者であること（出願資格７の場合、学歴に関する要件を問いません）
　②著書、学術論文、学術講演、研究報告、特許等において、修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること

２．認定手続き
　本大学院において、書類審査の上、認定しますが、必要に応じて口頭試問や筆記試験を行う場合があります。

職業を有する者について

職業を有する者で、入学後も在籍する場合は、課程修了まで出向、休職またはそれに準じた取り扱いにより、勤務先からの派遣が可能である者に限ります。

3 入試日程

	指導教員面談申込期間（消印有効）	出 願 期 間（消印有効）	試 験 日	合格発表日	入学手続締切日
1期	令和5年7月1日(土)～7月24日(月)	令和5年7月24日(月)～7月28日(金)	令和5年9月2日(土)	令和5年9月6日(水)	1次手続：令和5年 9月29日(金) 2次手続：令和5年11月24日(金)
2期	令和5年12月1日(金)～1月10日(水)	令和6年2月5日(月)～2月 9日(金)	令和6年2月17日(土)	令和6年2月22日(木)	令和6年3月8日(金)

4 選抜方法

書類審査と面接（プレゼンテーション含む）の評価を総合して選抜します。

面　　接 (プレゼンテーション含む)	<u>PowerPointを使用して行うこと。</u> PowerPointにて 20 分程度、修士論文または研究業績の内容、研究計画について説明。その後、質疑応答を行います。 また、志望する研究分野に関する専門科目（専門的学力）についての口頭試問を行います。 ● 博士前期課程修了後、出願までに3年以上経過した者の場合、上記に加え、その間の研究活動についての口頭試問を行います。 ● 外国人留学生の場合、上記に加え、日本語能力についての口頭試問を行います。

5 指導教員面談申し込みについて

志願者が希望する研究内容が受け入れ可能か確認するため、指導教員との事前面談が必要です。

<u>この面談の結果、受け入れ可能と判断された者のみが出願できます</u>（あくまで出願許可であり、合格を約束したものではありません）。

指導教員面談申込期間内（消印有効）に下記および次ページに記載の提出書類をそろえ、市販の角２封筒に封入し、郵便局窓口から簡易書留速達で郵送してください。

面談日は決定次第、入試課から連絡します（希望に添えない場合がありますので、予めご了承ください）。

提出書類

証明書などの発行日は、すべて申し込みの6か月以内とします。

所定の用紙については、「12 提出書類のダウンロードについて（▶P.18）」をご覧ください。

1	指導教員面談申込書	本学所定の用紙 面談-1
2	卒業論文・修士論文の概要	本学所定の用紙 面談-2 ただし、出願資格7に該当する者は提出不要です。
3	最終大学院修了(見込み)証明書	出身大学等が発行し、厳封したもの。 ただし、出願資格6に該当する者は出身大学等の卒業証明書を提出してください。 出願資格7に該当する者は提出不要です。
4	成績証明書	出身大学等が発行し、厳封した、<u>学部および博士前期課程の成績証明書。</u> ただし、出願資格7に該当する者は提出不要です。
5	出願資格認定申請書	本学所定の用紙 認定-1 認定-2 <u>出願資格6および7に該当する者のみ提出してください。</u>

6	そ　の　他	● 日本語または英語以外で作成されたものは、必ず公的機関または日本語学校等が証明する日本語訳か英語訳を添付してください。それ以外の者が翻訳する場合は、住所・氏名・本人との関係を記入し、押印して提出してください。 本人による翻訳は不可です。 ● 提出書類に不備がある場合は受け付けません。また、提出書類は一切返却しません。
7	宛 名 シ ー ト	必要事項を記入の上、角2封筒に貼り付けてください。

6 出願書類

証明書などの発行日は、すべて出願の6カ月以内とします。
所定の用紙については、「12 提出書類のダウンロードについて(▶ P.18)」をご覧ください

1	写　真　票	本学所定の用紙 Ａ票 検定料収納印のないものは受け付けません。
2	志　願　票	本学所定の用紙 D-㊙票　外国人留学生のみ D-㊙票(2)
3	出 願 許 可 書	指導教員との面談後に本学が発行・郵送した書類。
4	最 終 大 学 院 修了(見込み)証明書	指導教員面談申込時に提出済みのため不要です。
5	成 績 証 明 書	指導教員面談申込時に提出済みのため不要です。
6	志 望 理 由 書	書式は任意（書状の形式でよい、A4サイズ） 志望動機(勉学・研究を行う理由・目的）、抱負。外国人留学生の場合は、更に、日本へ留学を志した動機等も含む(必ず日本語で記すこと)。
7	入学志願者所見	本学所定の用紙 Ｆ票 出身大学等の指導教員が作成し、厳封したもの。 ただし、出願資格6および7に該当する者は別途案内します。
8	出 願 同 意 書	本学所定の用紙 Ｇ票 職業を有する者で、入学後も在職する場合は提出してください。
9	修　士　論　文 ・ 修士論文内容要約	書式は任意（A4サイズ） 修士論文またはそれに代わる論文(1部)と、その内容を1,000字程度に要約した概要。博士前期課程修了後、出願時までに3年以上経過した者は、その間の「研究活動報告書（書式は任意、A4サイズ）」も添付してください。 ただし、出願資格6および7に該当する者は「研究業績の要約(書式は任意、A4サイズで1,000文字程度に要約した概要)」をもって読み替えます。
10	研究(希望)計画書	本学所定の用紙 Ｈ票 博士後期課程における研究（希望）計画書。作成に当たっては、志望する指導教員に問い合わせてください。
11	研 究 業 績 調 書	本学所定の用紙 Ｉ票 可能な場合は別刷を添付してください。 ただし、出願資格 6 および 7 に該当する者は出願資格認定審査時に提出済みのため不要です。

12	写　真（２枚）	縦4cm、横3cm、上半身正面脱帽、背景なしで、出願の3カ月以内に撮影したものを写真票および志願票に貼り付けてください(裏面に氏名記入のこと。シール状の場合は記入不要）。
13	そ　の　他	● 現在、他の大学院に在籍中の者は、受験許可書を提出してください。 ● 外国人留学生は下記の書類も提出してください。 ①市区町村が発行した住民票(「国籍」「在留資格」「在留期間等」「在留カード等の番号」「在留期間の満了の日」が記載されている原本)。なお、「個人番号(マイナンバー)」は不要です。 ②現在、日本国内の教育機関（日本語学校や専門学校等）に在籍している者は、その教育機関の成績証明書および出席状況証明書。 ③日本語能力が証明できる書類(日本語能力試験の結果等)は任意です。 ● 日本語または英語以外で作成されたものは、必ず公的機関または日本語学校等が証明する日本語訳か英語訳を添付してください。それ以外の者が翻訳する場合は、住所・氏名・本人との関係を記入し、押印して提出してください。本人による翻訳は不可です。
14	宛名シート	必要事項を記入の上、角２封筒に貼り付けてください。

7 出願にあたっての注意事項

- 出願書類に不備がある場合は受け付けません。また、修士論文を除く出願書類は一切返却しません（修士論文は試験終了後に返却します）。
- 出願許可書に記載の志望専攻および指導教員以外への出願はできません。
- 出願書類に虚偽があった場合、合格を取り消すことがあります。
- 出願書類は市販の角２封筒に封入し、必ず郵便局窓口から簡易書留速達で郵送してください。
- 健康診断書の提出は必要ありません。ただし、入学後に実施する本学の健康診断を必ず受診してください。なお、身体に障がいがあり、受験上または修学にあたり留意する必要がある場合は出願の前に必ず入試課に相談してください。

8 検定料　30,000 円　※納入した検定料は理由のいかんを問わず返還しません。

必ず本学所定の写真票 Ａ票 、振込金受領書 Ｂ票 、振込依頼書 Ｃ票 を使用し、金融機関窓口から振り込んでください（Ａ･Ｂ･Ｃ票は切り離さず銀行へ持参してください）。検定料振り込み後、Ａ･Ｂ票の「取扱金融機関収納印」欄に収納印が押されていることを確認し、Ａ票を提出してください。Ｂ票は本人保存用のため、提出の必要はありません。

9 受験について

試 験 時 間	● 面　　接／13：00～
試 験 会 場 （集合時間）	湘南工科大学 ※ 試験当日、正門の掲示を確認し、試験開始10分前までに面接控室に集合してください。
持参するもの	受験票、プレゼンテーション時に使用するノートパソコンおよびPowerPointのデータ ※プレゼンテーションは自身のノートパソコンを使用します。やむを得ず用意ができない場合は出願時に入試課まで申し出てください。試験当日はPowerPointのデータが入ったUSBメモリーを持参してください。
注 意 事 項	● 試験にふさわしい服装で来てください。 ● 控室および試験室では、監督者・係員の指示に従ってください。
問い合わせ （入試課）	電話：0466-30-0200　　Eメール：ny-daigakuin@center.shonan-it.ac.jp （受付時間／月～金 8：30～16：30、土 8：30～12：30、日祝を除く）

10 合格発表・入学手続

1．合格発表について
- 合格発表日の13:00頃に、大学院掲示板に掲示するとともに、合格者のみに本人あて郵便（速達）で通知します。
- 不合格の通知は行いません。電話、郵便等による問い合わせには一切応じません。

2．入学手続について
- 「合格通知書」に同封の「入学手続要領」を参照し、入学手続締切日までに手続きを完了してください。
- 入学手続締切日までに手続きを完了しない場合は、入学を辞退したものとみなします。
- 職業を有する者は、別途、その長または代表者の入学承諾書を提出してください。
- 一度納入された学費およびその他費用は返還しません。
  ただし、やむを得ない理由により入学を辞退する場合は、「合格通知書」に同封の「入学手続要領」に記載されている通りに手続きを行うことにより、入学金を除く学費およびその他費用を返還します。

11 入学に必要な費用

（令和5年度参考　単位：円）

項目		分納		年額
		前期分（入学手続時）	後期分（9月）	
学費	入学金	250,000	—	250,000
	授業料	435,000	435,000	870,000
	施設拡充費	110,000	110,000	220,000
小計		795,000	545,000	1,340,000
その他費用	学生教育研究災害傷害保険料	3,620	—	3,620
合計		798,620	545,000	1,343,620

1. 入学金は初年度のみ徴収します。
2. 学費は、前期（入学手続時）795,000円、後期（9月）545,000円の2回に分けて納入してください。
   ただし、その他費用については、入学手続時に学費とあわせて納入してください。
   年額での納入を希望する場合は、入試課までご連絡ください。
3. 学生教育研究災害傷害保険は、学生の教育研究上（課外活動を含む）の災害事故についての補償制度で、3年間適用されます。（保険料の改定により金額変更となる場合があります。詳細は入学手続時にお知らせします。）

12 提出書類のダウンロードについて

令和6年度大学院入試で使用する提出書類（本学所定の用紙）は下記の方法でダウンロードしてください。

◎博士前期課程：一般入試（学外）

本学公式Webサイト　＞　入試情報　＞　大学院入試　＞　入試日程／博士後期課程

（URL：　https://www.shonan-it.ac.jp/examination/graduate-school/）

注意事項

- ページの拡大・縮小・両面印刷はせずに、A4サイズで印刷してください。
- 所定の用紙は、すべて黒のボールペン（消せるボールペンは不可）で記入してください。
- 間違えた場合は二重線を引いて訂正印を押し、正しい内容を余白に記入してください。修正液、修正テープは使用しないでください。
- その他、各用紙に記載の注意事項をよく読んで、間違いのないよう記入してください。

13 教育研究課程 ※令和５年４月現在の内容です。

共通科目

社会で活躍できる技術者・研究者となるためには、個々の専門分野だけでなく、大学院生としての共通的な基礎力向上と幅広い知識を持つことが必要とされる。このために専攻共通科目として、キャリア科目が準備されている。

1. キャリア科目

前期課程に学んだキャリア科目の内容を継続し、工学技術者・研究者を目指す将来計画や就職支援を図る目的として「エンジニアリングキャリアプラン D1 ～D3」が設けられている。大学院学生とのグループワークを通してより高度な意識改革や対人関係能力を伸ばすと共に、高学年では学術的知識を教授する能力や見識をもって学生を指導する能力を養い、教育職を意識した実践能力を高めることを目指す。「エンジニアリングキャリアプラン D1 ～D3」は通年の必修科目である。

機械工学専攻

教育目標

「機械技術関連分野において的確な目標設定が行え、さらに新規技術の開発目標を達成できる能力を備えた高度専門的職業人の養成 」

専攻の概要

現代社会は技術の発達により便利で快適な生活を享受できるようになった反面、産業の発展と共に環境問題に代表されるような負の影響も様々なところに生じている。扱われるエネルギや情報の量が膨大になる中、社会や自然環境は今後も急速に変化しつづけるものと考えられる。このような社会の状況や環境に応じて、機械技術を用いた社会に役立つための的確な目標設定を行うことができると共に、新規技術の開発も含めて、それらの目標を達成することができる能力を持つ職業人を、高度な研究活動を通して養成する。
それぞれの教育研究分野の具体的内容は以下のとおりである。

1. 設計・製造工学教育研究分野

ある機能を有する物を製造する際には、その機能を十分に発揮させるため、あるいは十分な耐久性を持たせるため、さらには製造コストを低減させるために、最適構造設計、加工法、設計技術などを複合的に利用する必要がある。本研究分野では材料の特性や挙動を解明する基礎的研究から設計・製造法の新規技術の開発までに関連する教育研究を行う。

2. エネルギ変換工学教育研究分野

多くのエネルギが利用され必要不可欠となっている現在、これを自然界から集め、取り出し、人類が利用しやすい形に変換する過程は自然環境を含めて社会に大きな影響を及ぼしている。資源を無駄に浪費しないための変換機器を高効率化する技術、安全に利用するための技術、環境への負荷を低減するための技術などについて、基礎となる熱工学、流体工学、燃焼工学、伝熱工学等を基にした教育研究を行う。

3. 機械制御工学教育研究分野

最近の情報技術や、センサ・アクチュエータ技術の進展に伴い、人工知能・自動制御によって機器の高度な制御が可能となり、各種機能を高度に発揮することができるようになった。人工知能・自動制御によるメカトロニクス分野の新しい機能や制御方法の開発、機械力学を基にする機械振動のアクティブあるいはパッシブ制御、音響工学を利用した騒音の低減等に関する研究に関連する教育研究を行う。

4. 機械材料工学教育研究分野

機械の耐久性向上、利用領域の拡大、性能の向上等の視点から、複合材料、金属材料等の高性能を示す機械構造材料および、高分子材料、無機材料等の高機能性材料の新規創生や、材料物性と発現機能の関連性、それらを生み出す成形製法について教育研究を行う。

以上の科目に加え、各分野に共通する科目として、学位論文を指導する機械工学特殊研究および産業界との密接な連携を重視し、内外関連企業の現場における高度先端技術の研究開発の現状、今後の展開を予見するための科目として、機械工学学外特殊演習を設けている。

電気情報工学専攻

教育目標

「電気情報分野において的確な目標設定が行え、さらに新技術の開発目標を達成できる能力を備えた高度専門的職業人の養成」

専攻の概要

電気情報工学は科学技術の発展に伴い、広範囲に発展してきた領域である。本専攻では実社会の技術課題の問題点を的確に把握し、解決方法を見出す能力を備えた高度専門的職業人を養成するために、基盤技術と先端技術により教育研究分野を編成している。すなわち、産業の基幹となる「電気電子工学」、高度情報化社会の進展に対応した「情報システム基盤層」および「情報システム上位層」、さらに、材料、回路、物性学に関する「電子情報材料工学」の4教育研究分野により編成される。

本専攻では、これら各専門分野に関する高度な講義、討論、研究を行うと共に、上記教育目標を達成することができる能力を持つ職業人を、高度な研究活動を通して養成する。それぞれの教育研究分野の具体的内容は以下のとおりである。

1. 電気電子工学教育研究分野

従来の環境と共存できる分散型エネルギシステムの構築、超高圧・大電流現象の究明、さらにこれらの分野において生じる非線形制御論などについて講義および研究を行う。

2. 情報システム基盤層教育研究分野

コンピュータハードウェア分野を中心に、システムLSI設計、画像処理、グラフィックシステム、非線形情報処理について講義および研究を行う。

3. 情報システム上位層教育研究分野

コンピュータソフトウェア分野を中心に、OS・ミドルウェアなど基本ソフトウェア、ソフトウェア工学、また自然言語処理、音声言語処理などの知識工学について講義および研究を行う。

4. 電子情報材料工学教育研究分野

電子デバイスの基礎となる半導体の基本的特徴から材料組成、結晶構造、界面状態、成分分布の分析法、さらに電子デバイスを用いた線形・非線形回路の解析法やシミュレーション手法などの幅広いテーマについて講義および研究を行う。

以上の科目に加え、各分野に共通する科目として、学位論文を指導する電気情報工学特殊研究および産業界との密接な連携を重視し、内外関連企業の現場における高度先端技術の研究開発の現状、今後の展開を予見するための科目として、電気情報工学学外特殊演習を設けてある。

授業科目および単位数

共通科目

区分	分野	科目名	配当年次	単位 必修	単位 選択	学期 前期	学期 後期	備考
共通科目	キャリア	エンジニアリングキャリアプランＤ１	1	2		○		
		エンジニアリングキャリアプランＤ２	2	2		○		
		エンジニアリングキャリアプランＤ３	3	2		○		

機械工学専攻科目

区分	分野	科目名	配当年次	単位 必修	単位 選択	学期 前期	学期 後期	備考
専攻専門科目	設計・製造工学	設計・製造工学特殊講義Ａ	1･2･3		2	○		
		設計・製造工学特殊講義Ｂ	1･2･3		2		○	
	エネルギ変換工学	エネルギ変換工学特殊講義Ａ	1･2･3		2	○		
		エネルギ変換工学特殊講義Ｂ	1･2･3		2		○	
	機械制御工学	機械制御工学特殊講義Ａ	1･2･3		2	○		
		機械制御工学特殊講義Ｂ	1･2･3		2		○	
	機械材料工学	機械材料工学特殊講義Ａ	1･2･3		2	○		
		機械材料工学特殊講義Ｂ	1･2･3		2		○	
	研究指導科目	機械工学特殊研究	1～3	8		○		
		機械工学学外特殊演習	1･2･3		2	(○)	(○)	いずれの学期でも履修可能

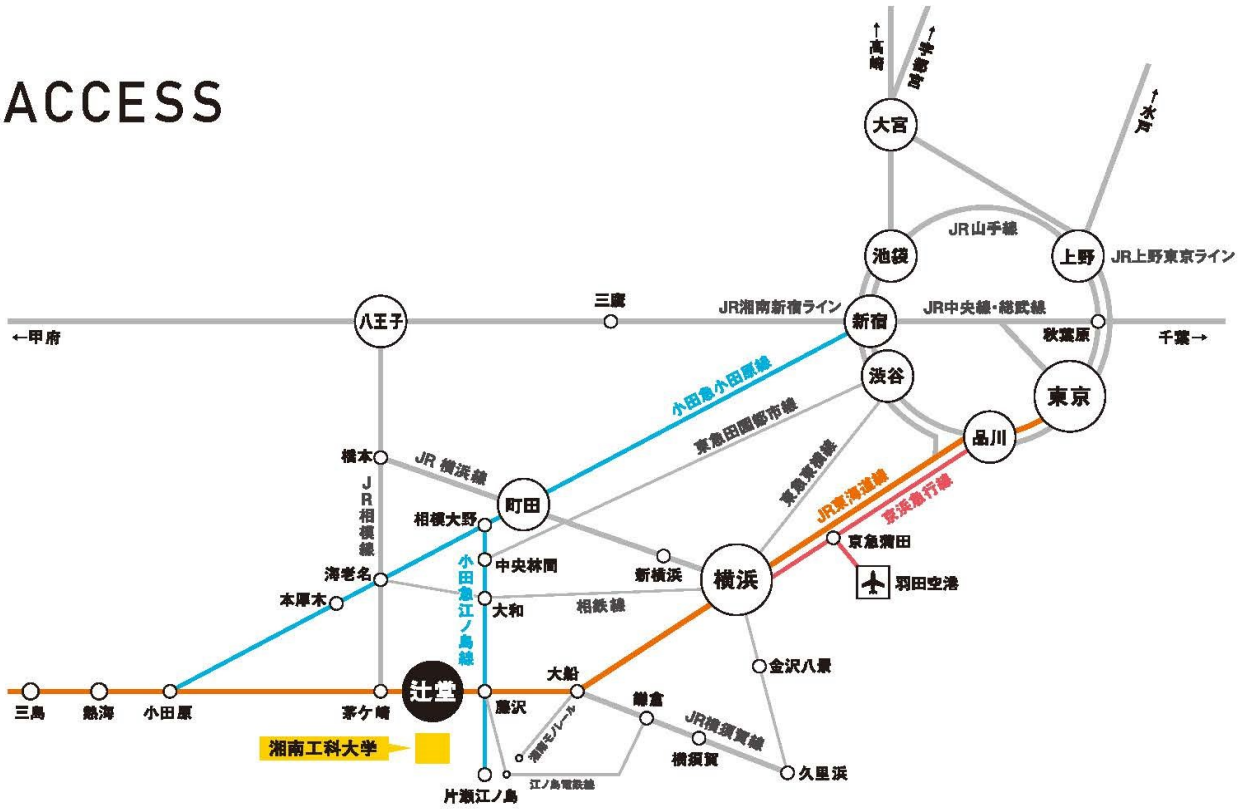
電気情報工学専攻科目

区分	分野	科目名	配当年次	単位 必修	単位 選択	学期 前期	学期 後期	備考
専攻専門科目	電気電子工学	電気電子工学特殊講義Ａ	1･2･3		2	○		
		電気電子工学特殊講義Ｂ	1･2･3		2		○	
	情報システム基盤層	情報システム基盤層特殊講義Ａ	1･2･3		2	○		
		情報システム基盤層特殊講義Ｂ	1･2･3		2		○	
	情報システム上位層	情報システム上位層特殊講義Ａ	1･2･3		2	○		
		情報システム上位層特殊講義Ｂ	1･2･3		2		○	
	電子情報材料工学	電子情報材料工学特殊講義Ａ	1･2･3		2	○		
		電子情報材料工学特殊講義B	1･2･3		2		○	
	研究指導科目	電気情報工学特殊研究	1～3	8		○		
		電気情報工学学外特殊演習	1･2･3		2	(○)	(○)	いずれの学期でも履修可能

履修上の注意事項

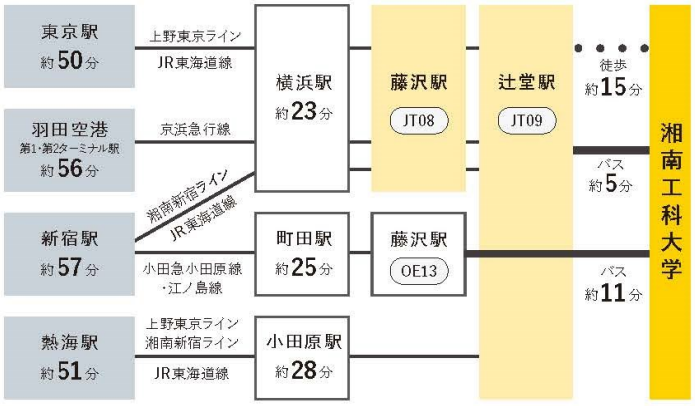
（１）18単位以上を修得すること。
（２）共通科目から別表第２－１に定める必修科目６単位を修得すること。
（３）自専攻の選択科目から２科目４単位以上を修得すること。
（４）指導教員が担当する特殊研究８単位を修得すること。
（５）他専攻の授業科目も履修できる。

ACCESS



辻堂駅周辺地図

主要駅から辻堂駅・藤沢駅までの所要時間



辻堂駅からのアクセス

■ JR東海道線「辻堂駅」東改札南口から徒歩約15分

■ バス約5分「浜見山」下車

・1番のりば「茅ケ崎駅南口」行

・2番のりば「鵠沼車庫前」行

藤沢駅からのアクセス

■ JR東海道線・小田急江ノ島線・江ノ島電鉄線

「藤沢駅」北口からバス約11分「浜見山」下車

・2番のりば「辻堂駅」「辻堂駅南口」「辻堂団地」行

湘南工科大学 | 〒251-8511 神奈川県藤沢市辻堂西海岸1-1-25　［入試課］TEL:0466-30-0200 E-Mail:ny-daigakuin@center.shonan-it.ac.jp

MEMO

大学院

やりたいことを、できることに。

湘南工科大学
SHONAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒251-8511　神奈川県藤沢市辻堂西海岸1-1-25
［入試課］TEL：0466-30-0200　　FAX：0466-34-4022
https://www.shonan-it.ac.jp